

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	シート区分	ページ
32121	一草庵公開活用事業	教育委員会事務局	文化財課	シートB	2
44111	文化財保護管理事業	教育委員会事務局	文化財課	シートA	4
44111	文化財めぐり事業	教育委員会事務局	文化財課	シートB	5
44111	釣島灯台旧官舎管理運営事業	教育委員会事務局	文化財課	シートA	7
44111	文化財保存顕彰事業補助	教育委員会事務局	文化財課	シートA	8
44111	県指定史跡庚申庵活用事業	教育委員会事務局	文化財課	シートB	9
44111	久米官衙遺跡群遺構保全事業	教育委員会事務局	文化財課	シートB	11
44111	葉佐池古墳公園公開活用事業	教育委員会事務局	文化財課	シートB	13
44112	埋蔵文化財管理運営事業	教育委員会事務局	文化財課	シートA	15
44112	埋蔵文化財センター管理・教育普及事業	教育委員会事務局	文化財課	シートB	16
44112	市内遺跡発掘調査事業	教育委員会事務局	文化財課	シートA	18
44211	運営補助金交付事業	教育委員会事務局	文化財課	シートA	19

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	史跡整備担当	連絡先	948-6891				
	部等長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	主幹	高橋 秀忠	担当者名	副主幹	伊藤 豊	主任	宇都宮 寛子
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	史跡整備担当	連絡先	948-6891				
	部等長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	主幹	高橋 秀忠	担当者名	主査	伊藤 豊		

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	32121	一草庵公開活用事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	2:委託	
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			重点プロジェクト	-		
施策	選ばれた都市づくり			主な取り組み	-		
主な取り組み	「ことば」文化の内外発信						
取り組みの柱	「坊っちゃん文学賞」や「俳句甲子園」、「俳句ポスト」、「ことばのちからイベント」などを展開していく中で、松山ならではの「ことば」文化の浸透を図ります。		市長公約				
総合戦略	基本目標	-	取組み				
	政策	-					
	施策	-					
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等	松山市一草庵条例、松山市一草庵条例施行規則						
事業の目的(どのような状態にするか)	種田山頭火の終焉の場所である一草庵の維持管理と公開活用を目的とする。						
背景(どのような経緯で開始したか)	昭和55年に種田山頭火終焉の場所である一草庵(昭和27年再建)が松山市に寄附されて以降、一草庵の日常の維持管理と活用は「文化財保護事業」として行っていたが、平成13年度に「一草庵管理運営事業」として新たに事業化した。その後、一草庵と種田山頭火に寄せる市民や観光客の関心の高まりを受け、平成20年度に一草庵とその周辺環境整備を行い、平成21年度から事業名を「一草庵公開活用事業」として、現在に至る。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	一草庵、市民、観光客、俳句愛好家、山頭火ファン、庵利用者を対象とし、俳句のまちに相応しい文化的観光施設として活用するため、種田山頭火の終焉の地にたつ「一草庵」を公開する。 ・庵の公開は、土曜日・日曜日・祝日(年末年始を除く)・・・「NPO法人まつやま山頭火倶楽部」へ委託料を支出 ・休憩所を含めた敷地内の美化、維持管理・・・「一草庵管理協会」へ委託料を支出 ・敷地内樹木等の維持管理(剪定・消毒)等・・・「公益社団法人松山市シルバー人材センター」へ委託料を支出						
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由	庵を占有利用する平日(9時～16時)限り、1時間500円			
始期・終期(年度)	平成	21	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費		項	社会教育費		目	文化財保護費	R3 予算措置時期	当初
				R2年度	R3年度		R3年度	R4年度				
現計予算額(A)(単位:千円)					1,719			2,574				1,699
決算額(B)(単位:千円)					1,638			2,387				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金				0			0				0
	県支出金				0			0				0
	市債				0			0				0
	その他				1			1				10
	一般財源				1,637			2,386				1,689
主な経費(単位:千円) ※R3→決算、R4→予算							公開業務委託料 933千円 管理業務委託料 51千円 庭園管理業務委託料 236千円			公開業務委託料 933千円 管理業務委託料 51千円 庭園管理業務委託料 242千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等							流用による増減あり					
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)		81			187				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	庵の公開 ・敷地内の美化 ・樹木の維持管理										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下			左記の理由として良かった点、悪かった点など			予定していた公開、美化及び維持管理が実施できたため			
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		全国の山頭火ファン・俳句愛好家等が訪れ、市の魅力向上に寄与しているため						
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	・草木の繁茂 ・新型コロナウイルスの影響による来庵者数の減少			環境変化、障害、課題等解決のため、R4年度で取り組む改善策			・地元協会の文化財課で協力して適正な草木維持管理を行う。 ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、できる限り集客を図る。				
R4年度の目標	・貴重な資源である一草庵を有効活用し、市の魅力を向上させ、来園者数5,000人を目指す。			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			・庵の公開、活用 ・敷地内の美化 ・樹木の維持管理				

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	庵内部の公開	日	目標値	-	-	120	120	120	目標値	120	
			実績値	-	-	86			達成年度	R5年度	
		%	達成度	-	-	72%					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の設定の考え方	土・日・祝日及び記念日(10/1来松日、12/15入庵日、10/11命日)を庵内部の公開日として、年間約120日を設定している。			
	本指標の設定理由	成果指標の増加につながる指標であるため									
	活動指標			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
	活動指標			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%		達成度									
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	来庵者数	人	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	目標値	5,000	
			実績値	3,909	2,640	2,109			達成年度	R5年度	
		%	達成度	78%	53%	42%					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の設定の考え方	第4次まつやま教育プラン21で設定した目標値と同じ。			
	本指標の設定理由	全国の山頭火ファン、俳句愛好家等に対する一草庵の公開活用状況を示す指標であるため									
	成果指標			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
	成果指標			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%		達成度									
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	土・日・祝日及び記念日に庵内部の公開を行ったが、4月～5月及び8月下旬～9月に新型コロナウイルス感染症対策のため休場したことにより開庵日数が少なくなった。									
	成果指標	新型コロナウイルス感染症の影響等により、令和3年度は令和2年度より臨時休場日が27日間から94日間へ増えたため来庵者がさらに減少した。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	文化財保護	連絡先	948-6603		
	部等長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	担当者名	主任	本田 静香	
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	文化財保護	連絡先	948-6603		
	部等長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	担当者名	主任	本田 静香	

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	44111	文化財保護管理事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-	
施策	文化遺産の継承			主な取り組み	-	
主な取り組み	文化財の保存・活用		市長公約	-		
取り組みの柱	市のみならず国・県の指定文化財について、所有者の保存修理に対する技術的・財政的支援などを行い、その保護に努めるとともに、できる限り広く活用することで、より幅広い層に関心を広げていき、市民の文化財に対する理解を深めます。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等	文化財保護法					
事業の目的(どのような状態にするか)	文化財保護審議会の実施運営、所管施設の維持管理等、文化財の保護管理を通じて文化財・文化遺産の保存・伝承並びに文化財保護意識の普及啓発を目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	文化財保護法に基づいた文化財の保護					
対象・事業内容(誰に対して、何をするのか)	文化財保護審議会及び専門部会(5部会)の運営を通じて、松山市文化財の指定・解除、修理指導、国・県指定文化財を含めた文化財の保全・活用を推進する。また、所管施設の維持管理や教育委員会設置の約200基の文化財説明看板の維持管理を通して、広く市民に対して文化財保護意識の普及啓発に努める。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	~ 令和 4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費		社会教育費		文化財保護費	R3予算措置時期	当初
				項	目	目	目			
				R2年度		R3年度		R4年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				2,848		10,995		6,540		
決算額(B)(単位:千円)				2,615		9,452				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金			0		4,259		1,628		
	県支出金			0		0		0		
	市債			0		0		0		
	その他			164		137		100		
	一般財源			2,451		5,056		4,812		
主な経費(単位:千円) ※R3→決算 R4→予算						委員報酬 686千円 除草等業務委託料 7,816千円		委員報酬 836千円 除草等業務委託料 4,298千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		233		1,543		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護審議会の開催(書面開催) 所管施設及び文化財説明看板の維持管理 文化財の指定や登録に向けた調査 「松山市文化財保存活用地域計画」の策定(策定事業期間:令和3~5年) 						
主な取り組み内容の達成度	↑	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	文化財所有者や文化財保護審議会と連携し、指定・登録文化財の保存・管理に努めた。調査等の結果、彫刻1件が重要文化財に、工芸品1件が県有形文化財に、工芸技術1件が県無形文化財にそれぞれ指定された。また、建造物2件が登録有形文化財に登録された。			
施策への貢献度(目的達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	指定文化財の的確な保存・管理が行われた。彫刻1件が重要文化財に、工芸品1件が県有形文化財に、工芸技術1件が県無形文化財にそれぞれ指定された。また、建造物2件が登録有形文化財に登録された。				
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない		公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	令和元年、世界遺産ノートルダム寺院及び首里城が火災により焼失したことを受け、文化財の防火防災対策の見直し、強化に対する社会的要請が高まっている。また、少子高齢化に伴う、文化財所有者の高齢化、文化財保護の担い手不足は深刻であり、所有者個人や保存会等の努力に多くを委ねてきた文化財保護は限界を迎えようとしている。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		国宝太山寺本堂及び大宝寺本堂の防災整備事業が実施されることを受け、国・県・所有者との調整、事務支援に努める。また、文化財の所有者や保存会との連携と支援に努め、担い手不足の改善を図っていく。さらに、文化財保存活用地域計画の策定を通して、諸課題の改善策を検討する。		
R4年度の目標	指定文化財の保護に努め、適切な保存環境を整えとともに、市民の文化財保護意識を高める。また、事業期間が令和3~5年度までの「文化財保存活用地域計画策定事業」について、今年度は、各調査や計画書の作成作業を進める。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護審議会の開催 所管施設及び文化財説明看板の維持管理 新指定、新登録候補の文化財に関する調査 文化財の新指定、新登録 文化財保存活用地域計画策定を進める 		

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	文化財保護	連絡先	948-6603			
	部等長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	担当者名	主査	玉川 徹	主任	本田 静香
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	文化財保護	連絡先	948-6603			
	部等長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	担当者名	主査	玉川 徹	主任	本田 静香

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	44111	文化財めぐり事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-	
施策	文化遺産の継承			主な取り組み	-	
主な取り組み	文化財の保存・活用		市長公約	232	誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる松山をつくります	
取り組みの柱	市のみならず国・県の指定文化財について、所有者の保存修理に対する技術的・財政的支援などを行い、その保護に努めるとともに、できる限り広く活用することで、より幅広い層に関心を広げていき、市民の文化財に対する理解を深めます。				スポーツコンベンションの誘致や地域でのスポーツ活動の活性化、俳都松山ならではの文化プログラムの実施など、市民の誰もが気軽にスポーツや文化芸術に親しめる機会を充実します。	
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等							
事業の目的(どのような状態にするか)	国・県・市指定文化財等、郷土に残存する文化遺産を訪ねることにより、市民の文化財に対する認識・郷土に対する愛護の精神を養い、文化財保護教育の普及促進を図るために実施する。						
背景(どのような経緯で開始したか)	文化財講座の移動教室として、郷土に残存する文化遺産を訪ねることにより、市民の文化財に対する認識・郷土に対する愛護思想の涵養を図るために事業開始された。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	文化財に関心の高い市内在住の市民で構成される町内会や高齢者クラブ等、団体からの申し込みを受け付け、講師の説明のもと、市内の文化遺産を貸切バスで巡る。また、文化財に関心の高い市内在住の個人向けには年間9回、日曜日に開催される「一人でも参加できる文化財めぐり」を実施している。						
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由	1団体(40名参加)につき負担金20,000円 「一人でも参加できる文化財めぐり」については、1人あたり1,000円			
始期・終期(年度)	昭和	42	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検計時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費	項	社会教育費	目	文化財保護費	R3 予算措置時期	当初
現計予算額(A)(単位:千円)				1,740			2,785	2,510		
決算額(B)(単位:千円)				6			0	0		
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金		0			0	0			
	県支出金		0			0	0			
	市債		0			0	0			
	その他		0			0	720			
一般財源		6			6	1,790				
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算								大型バス賃借料 1,674千円 案内業務委託料 245千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と事業実施の両立を模索したが、市民の安全を第一に考えた結果、一度も実施できなかったため、決算額0円となった。				
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)		1,734		2,785				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と事業実施の両立を模索したが、市民の安全を第一に考えた結果、一度も実施できなかった。					
主な取り組み内容の達成度	↓	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と事業実施の両立を模索したが、市民の安全を第一に考えた結果、一度も実施できなかった。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	3:貢献していない		左記の理由	実施できなかったため		
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実施できていない。 ・申請団体が固定化しているほか、団体自体の活動の低迷や構成員の減少等から、毎年実施していた団体が申し込まなくなってきた。 ・「一人でも参加できる文化財めぐり」については、申込者の高齢化が進んでいるほか、実施コースや季節により申込者数の偏りがある。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組み改善策	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の徹底と事業実施の両立の可能性を検討する。 ・より幅広い層の団体や個人からの参加を促すため、募集方法や実施形態を見直す。		
R4年度の目標	・文化財めぐり再開に向けて、実施内容や運用方法を見直す。 ・より広い参加者層の獲得、参加者数の増加を目指す。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	・実施内容や運用方法の見直し ・実施内容の周知		

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	実施回数	回	目標値	40	40	30	27	27	目標値	27	
			実績値	22	0	0			達成年度	R5年度	
			% 達成度	55%	0%	0%					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方	予算範囲内での最大実施回数				
	本指標の設定理由	募集の目的である文化財保護教育の普及促進を実施回数により測るため									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
% 達成度											
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	参加人数	人	目標値	1,600	1,600	1,200	1,080	1,080	目標値	1,080	
			実績値	796	0	0			達成年度	R5年度	
			% 達成度	50%	0%	0%					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方	1回の参加人数を40人とし、実施回数での最大参加人数とする。				
	本指標の設定理由	募集の目的である文化財保護教育の普及促進を参加人数により測るため									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
% 達成度											
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため実施できなかった。									
	成果指標	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため実施できず、参加人数も0だった。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	文化財保護	連絡先	948-6603
	部等長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	担当者名	主任 本田 静香
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	文化財保護	連絡先	948-6603
	部等長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	担当者名	主任 本田 静香

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	44111	釣島灯台旧官舎管理運営事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-	
施策	文化遺産の継承			主な取り組み	-	
主な取り組み	文化財の保存・活用		市長公約	-		
取り組みの柱	市のみならず国・県の指定文化財について、所有者の保存修理に対する技術的・財政的支援などを行い、その保護に努めるとともに、できる限り広く活用することで、より幅広い層に関心を広げていき、市民の文化財に対する理解を深めます。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等						

事業の目的(どのような状態にするか)	本市が所有する市指定文化財(建造物)の維持管理、及び公開活用を行うことにより、広く市民の文化財保護意識の啓発を図る。					
背景(どのような経緯で開始したか)	昭和38年以来無人となり荒れていた吏員官舎を本市が払い下げを受け、平成7年度から3ヶ年をかけ復原整備したことによる。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	釣島灯台旧官舎の維持管理、及び公開活用を行う。 ・釣島町内会への維持管理業務委託 ・広く市民ボランティアを募集し、文化財の維持管理を行うイベント「釣島サポーター」の実施 ・広く市民の文化財保護意識の啓発を図るためのクーリング事業への補助金交付					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由		
始期・終期(年度)	平成 7	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費		社会教育費	目	文化財保護費	R3予算措置時期	
				項					当初	
				R2年度		R3年度		R4年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				1,292		1,323		1,320		
決算額(B)(単位:千円)				821		537				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0		0		0		
	県支出金			0		0		0		
	市債			0		0		0		
	その他			0		0		0		
	一般財源			821		537		1,320		
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算						維持管理等委託料 489千円		維持管理等委託料 656千円 釣島灯台旧官舎公開事業(クーリング事業)補助金 400千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						流用による減あり				
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		471		786		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	維持管理業務委託 ・敷地内環境整備(草木等除草・剪定)業務委託 ・消防設備保守点検業務委託					
主な取り組み内容の達成度	↓	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と公開事業実施の両立を模索したが、市民の安全を第一に考えた結果、公開事業を実施できなかった。		
施策への貢献度(目的達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	公開事業は実施できなかったものの、維持管理業務や敷地内環境整備業務の委託を行う等、文化財の維持管理は行えたため			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	施設の老朽化 維持管理業務委託契約を釣島町内会と結んでいるが、高齢化が進んでいる。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、公開事業が実施できていない。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策	施設の老朽化及び委託契約先の高齢化については、町内会と密に連絡を取り合い、連携し、適切な保存・維持管理に努めていく。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の徹底と公開事業実施の両立の可能性を検討する。		
R4年度の目標	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の徹底と公開事業実施の両立を目指す中で、可能な範囲での参加者数増加を図り、市民の文化財保護意識を高める。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	・各種事業の委託実施 ・ボランティアイベント「釣島サポーター」の実施 ・クーリング事業への補助金交付		

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	文化財保護	連絡先	948-6603		
	部等長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	担当者名	主任	本田 静香	
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	文化財保護	連絡先	948-6603		
	部等長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	担当者名	主任	本田 静香	

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	44111	文化財保存顕彰事業補助	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-	
施策	文化遺産の継承			主な取り組み	-	
主な取り組み	文化財の保存・活用		市長公約			
取り組みの柱	市のみならず国・県の指定文化財について、所有者の保存修理に対する技術的・財政的支援などを行い、その保護に努めるとともに、できる限り広く活用することで、より幅広い層に関心を広げていき、市民の文化財に対する理解を深めます。					
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等	文化財保護法第35条、愛媛県文化財保護条例第16条、松山市文化財保護条例第14条						
事業の目的(どのような状態にするか)	文化財の管理又は修理を行うにつき多額の経費がかかる場合に、その費用の一部を補助することにより文化財の保存保護に資する。						
背景(どのような経緯で開始したか)	文化財の保護については昭和25年に文化財保護法が制定され、昭和28年に愛媛県文化財保護条例、昭和37年には松山市文化財保護条例が制定され、文化財保存顕彰事業補助について開始した。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	国、県、市指定文化財所有者若しくは管理者、管理団体が指定文化財の管理、修理、整備等を行う際、費用負担が困難である場合、率を定めて補助金を交付する。						
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由	文化財所有者の負担は、国指定の修理の場合総事業費の5~16.6%、国指定の管理費の場合総事業費の25%、県指定の場合総事業費の33.3%以上、市指定の場合総事業費の50%			
始期・終期(年度)	昭和	38	~	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費	項	社会教育費	目	文化財保護費	R3予算措置時期		6月補正
									R2年度	R3年度	R4年度
現計予算額(A)(単位:千円)						8,835		7,469			18,449
決算額(B)(単位:千円)						8,885		7,491			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳			国支出金			0		0			0
			県支出金			0		0			0
			市債			0		0			0
			その他			0		0			0
			一般財源			8,885		7,491			18,449
主な経費(単位:千円) ※R3→決算、R4→予算								負担金補助及び交付金 7,424千円			負担金補助及び交付金 18,291千円
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等								金額6月補正予算 流用による増あり			金額6月補正予算
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			-50		-22			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助 2件 ・国指定文化財管理費補助 7件 ・愛媛県指定文化財保存顕彰事業費補助 2件										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点、悪かった点など	補助事業を活用し、適正な文化財保存顕彰事業が実施された。							
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	補助金交付により、文化財の保存保護に寄与した。								
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない					
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	文化財所有者の高齢化や所有団体の弱体化等により、自己負担金の捻出が困難なケースが増えている。			環境変化、障害、課題等解決のため、R4年度で取り組む改善策			民間助成金の活用等、自己負担軽減のためにできることを所有者に提案していく。				
R4年度の目標	保存・活用事業費、管理費、保存顕彰事業費の一部を補助することにより、文化財の適切な保存保護を目指す。			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			・国宝重要文化財等保存・活用事業費補助 2件 ・国指定文化財管理費補助 7件 ・愛媛県指定文化財保存顕彰事業費補助 3件				

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	史跡整備担当	連絡先	948-6891				
	部等長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	主幹	高橋 秀忠	担当者名	副主幹	伊藤 豊	主任	宇都宮 寛子
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	史跡整備担当	連絡先	948-6891				
	部等長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	主幹	高橋 秀忠	担当者名	主査	伊藤 豊		

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	44111	県指定史跡庚申庵活用事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	3:指定管理
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-	
施策	文化遺産の継承			主な取り組み	-	
主な取り組み	文化財の保存・活用		市長公約	-		
取り組みの柱	市のみならず国・県の指定文化財について、所有者の保存修理に対する技術的・財政的支援などを行い、その保護に努めるとともに、できる限り広く活用することで、より幅広い層に関心を広げていき、市民の文化財に対する理解を深めます。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)		2:無し	

根拠法令,条例,個別計画等	愛媛県文化財保護条例、松山市庚申庵史跡庭園条例、松山市庚申庵史跡庭園条例施行規則						
事業の目的(どのような状態にするか)	愛媛県指定史跡庚申庵の管理及び活用並びに市民による自主的な文化財保護及び活用の促進を目的とする。						
背景(どのような経緯で開始したか)	味酒町二丁目に残る愛媛県指定史跡庚申庵を保存・保護するため、本市が平成12年度に公有化した。平成13・14年度に「県指定史跡庚申庵整備事業」として整備工事を行った。平成15年5月に史跡庭園として開園し、「県指定史跡庚申庵活用事業」として現在に至る。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	愛媛県指定史跡庚申庵を含めた「松山市庚申庵史跡庭園」及び広く市民等を対象に、指定管理者である「NPO法人GCM庚申庵倶楽部」へ指定管理料を支出し、施設管理のほか、次の活性化事業を実施している。 ・春のふじまつり、開園記念イベント、観月会、湯豆腐忌、地域文化講座、三庵めぐり など						
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由	庵を占有使用する日(10時～18時)限り、1時間510円			
始期・終期(年度)	平成	15	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費		社会教育費		文化財保護費	R3 予算措置時期	当初
				項	目	目	目			
				R2年度		R3年度		R4年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				9,360		9,577		9,552		
決算額(B)(単位:千円)				9,360		9,577		9,552		
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金			0		0		0		
	県支出金			0		0		0		
	市債			0		0		0		
	その他			36		69		170		
	一般財源			9,324		9,508		9,382		
主な経費(単位:千円) ※R3→決算、R4→予算				指定管理料		9,168千円		指定管理料		
				ノダフジ樹勢回復業務委託料		409千円		シロフジ樹勢回復業務委託料 171千円 白蟻防除委託料 213千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		0		0		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	指定管理による施設の維持管理と活性化事業(湯豆腐忌、地域文化講座等)の開催 ・ノダフジ樹勢回復業務					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点、悪かった点など	指定管理者による施設の維持管理やノダフジ樹勢回復業務を行うとともに、活性化事業(湯豆腐忌、地域文化講座等)の開催により来庵者の満足度向上が図られたため		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	指定管理者による適切な施設の維持管理と活性化事業の開催により文化財の保護と活用が図られているため			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	・庭園のノダフジ樹勢回復 ・庭園のシロフジ樹勢回復 ・庭園の植栽が開園当初よりも大きく育っているため、剪定等により適切に維持管理する必要がある。 ・新型コロナウイルスの影響による来庵者数の減少		環境変化、障害、課題等解決のため、R4年度で取り組む改善策	・庭園の植栽が開園当初よりも大きく育っているため、剪定等により適切に維持管理を行う。 ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、できる限り集客を図る。		
R4年度の目標	・フジの樹勢回復及び庭園の適切な維持管理により、来庵者数10,000人を目指す。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	・指定管理者による施設の維持管理と活性化事業の実施 ・シロフジの樹勢回復 ・庵等の白蟻防除 ・庭園の植栽管理		

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	イベント等の実施回数	回	目標値	—	9	9	9	9	目標値	9	
			実績値	—	8	8	8	達成年度	R5年度		
			% 達成度	—	89%	89%					
	指標の種類	1.単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	指定管理者管理業務仕様書を基に設定した。				
	本指標の設定理由	成果指標の増加につながる指標であるため									
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			% 達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
% 達成度											
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	来園者数	人	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	目標値	10,000	
			実績値	9,381	2,850	2,229			達成年度	R5年度	
			% 達成度	94%	29%	22%					
	指標の種類	1.単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	第4次まつやま教育プラン21で設定した目標値と同じ。				
	本指標の設定理由	市民等による庚申庵の活用状況を示す指標であるため									
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			% 達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
% 達成度											
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	新型コロナウイルス感染症の影響等により、春のイベントが実施できなかった。									
	成果指標	新型コロナウイルス感染症の影響等により、令和3年度は令和2年度より臨時休園日が27日間から94日間へ増えたため来園者がさらに減少した。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	史跡整備担当	連絡先	948-6891				
	部等長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リダー名	主幹	高橋 秀忠	担当者名	副主幹	伊藤 豊	主任	宇都宮 寛子
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	史跡整備担当	連絡先	948-6891				
	部等長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リダー名	主幹	高橋 秀忠	担当者名	主査	伊藤 豊		

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	44111	久米官衙遺跡群遺構保全事業	事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	2:委託	
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-		
施策	文化遺産の継承			主な取り組み	-		
主な取り組み	文化財の保存・活用		市長公約	-			
取り組みの柱	市のみならず国・県の指定文化財について、所有者の保存修理に対する技術的・財政的支援などを行い、その保護に努めるとともに、できる限り広く活用することで、より幅広い層に関心を広げていき、市民の文化財に対する理解を深めます。			-			
総合戦略	基本目標	-					
	政策	-					
	施策	-					
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等	文化財保護法、史跡久米官衙遺跡群保存管理計画						
事業の目的(どのような状態にするか)	国指定史跡久米官衙遺跡群の保全と活用を目的とする。						
背景(どのような経緯で開始したか)	来住町にある国指定史跡来住町廃寺跡(昭和54年指定)の保存・保護及び整備のために昭和56年度から史跡用地の公有化を開始した。史跡来住廃寺跡周辺で、古代役所に関する遺跡が多数発見されたことから、久米官衙遺跡群としてその保存・保護を目的に、国史跡の指定と公有化を目指すために、平成14年度から新たに事業を開始し、現在に至る。 なお、久米官衙遺跡群は、平成15年に国指定史跡となった(来住廃寺跡から名称変更し指定範囲が拡大した)。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	史跡久米官衙遺跡群、市民を対象とし、次の事業を行う。 ・土地所有者からの申し出があれば、史跡指定地の公有化を行う。 ・地元顕彰団体「久米官衙保存会」へ委託料を支出し、公有化した土地の維持管理を行う。 ・史跡整備に向けた調査・研究を行う。						
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由				
始期・終期(年度)	平成	14	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費		社会教育費		目	埋蔵文化財費	R3 予算措置時期	当初	
				項		目						
				R2年度		R3年度		R4年度				
現計予算額(A)(単位:千円)				2,436		2,436		2,392		2,408		
決算額(B)(単位:千円)				2,196		2,196		2,076		2,402		
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0		0		0		0		
	県支出金			0		0		0		0		
	市債			0		0		0		0		
	その他			6		6		6		6		
	一般財源			2,190		2,190		2,070		2,402		
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算						暫定活用管理運営業務委託料 1,420千円 一般廃棄物収集運搬業務委託料 620千円		暫定活用管理運営業務委託料 1,420千円 一般廃棄物収集運搬業務委託料 620千円				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等												
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		240		316				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・公有化した土地の維持管理					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	公有化した土地を適切に維持管理することができた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	公有化した土地の適切な維持管理により、地域の交流イベント(来住廃寺まつり)の会場として利用されている。			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	・雑草の繁茂や違法駐車などによる近隣住民の生活への悪影響		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策	・久米官衙保存会と文化財課で協力して適正な除草や見回り点検等の維持管理を行う。		
R4年度の目標	・公有化済みの土地について、草刈りや見回り点検など適切な維持管理を継続し、地域住民等の活用や理解がより進むようにする。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	・除草及び見回り点検 ・廃棄物の収集運搬 ・遺跡説明看板の更新		

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	検討部会実施回数	回	目標値	1	1	1	1	1	目標値	1	
			実績値	1	1	0			達成年度	R5年度	
		%	達成度	100%	100%	0%					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方	地域住民の住環境と調和のとれた整備を目指すため、今後の整備方針及び進捗管理を行うための部会を年1回実施するものとして設定した。				
	本指標の設定理由	整備計画策定の進捗を図る指標であるため									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
%		達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	整備計画	件	目標値	1	1	1	1	1	目標値	1	
			実績値	0	0	0			達成年度	R5年度	
		%	達成度	0%	0%	0%					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方	整備計画の策定				
	本指標の設定理由	整備計画の策定を示す指標であるため									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
%		達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	新型コロナウイルス感染症の影響等により、検討部会が実施できなかった。									
	成果指標	本格的な整備に向けての諸問題を解決するには長期間を要しており、今年度は策定に至らなかった。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	史跡整備担当	連絡先	948-6891				
	部等長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リダー名	主幹	高橋 秀忠	担当者名	副主幹	伊藤 豊	主任	宇都宮 寛子
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	史跡整備担当	連絡先	948-6891				
	部等長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リダー名	主幹	高橋 秀忠	担当者名	主査	伊藤 豊		

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	44111	葉佐池古墳公園公開活用事業	事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	2:委託
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-	
施策	文化遺産の継承			主な取り組み	-	
主な取り組み	文化財の保存・活用		市長公約	-		
取り組みの柱	市のみならず国・県の指定文化財について、所有者の保存修理に対する技術的・財政的支援などを行い、その保護に努めるとともに、できる限り広く活用することで、より幅広い層に関心を広げていき、市民の文化財に対する理解を深めます。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	文化財保護法、都市公園法、松山市都市公園条例、松山市都市公園条例施行規則、市長の権限に属する事務の松山市教育委員会への委任及び教育委員会の事務局の職員等の補助執行に関する規則、葉佐池古墳公園管理規則					
事業の目的(どのような状態にするか)	国指定史跡葉佐池古墳の保存・保護及び公開・活用並びに都市公園として維持管理を行うことを目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	葉佐池古墳は平成4年に発見され、平成5年度に松山市が古墳の保存と活用のために一部を公有化した。平成5年から平成9年にかけて発掘調査(1次・2次)、遺物などの資料整理を行い、調査報告書を刊行した。平成10年度から「葉佐池古墳整備推進事業」として、古墳の継続した維持管理と整備検討を進め、平成18年から平成20年にかけて追加調査(3・4・5次)を実施した。国の史跡指定を受けることから、文化財の保存保護とその公開・活用を目指すため、平成22年度から「葉佐池古墳整備推進事業」として着手し、平成23年2月に史跡指定を受けた。平成26年7月12日、「葉佐池古墳公園」を開園し、平成27年度から「葉佐池古墳公園公開活用事業」として、現在に至る。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	葉佐池古墳、市民、古代歴史ファンを対象とし、文化財の保存・保護と啓発、公園の維持管理のため、主に次の業務を行う。 ・地元顕彰団体「葉佐池くらぶ」へ委託料を支出し、公開活用及び維持管理を行う。 ・「松山市シルバー人材センター」へ委託料を支出し、墳丘部の草木維持管理を行う。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	平成 27	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費		社会教育費		目	埋蔵文化財費	R3 予算措置時期	当初
				項		目					
				R2年度		R3年度		R4年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				4,277		4,261		4,385			
決算額(B)(単位:千円)				4,153		4,009					
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金			0		0		0			
	県支出金			0		0		0			
	市債			0		0		0			
	その他			1		1		1			
	一般財源			4,152		4,008		4,384			
主な経費(単位:千円) ※R3→決算R4→予算				公開活用維持管理業務委託料 2,175千円 墳丘草木維持管理業務委託料 913千円 光熱水費 404千円		公開活用維持管理業務委託料 2,165千円 墳丘草木維持管理業務委託料 938千円 光熱水費 540千円					
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		124		252			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・人骨3体(複製)が埋葬されている1号石室及び発掘成果等を展示しているガイダンス棟の公開・活用 ・公園としての維持管理					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	新型コロナウイルス感染症対策のため、公開日は減少したものの、葉佐池古墳の適切な保存と公開・公園の維持管理ができた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	葉佐池古墳公園は、地域の歴史・文化の貴重な資料として価値があるため			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	・新型コロナウイルス感染症の影響による来園者数の減少		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、できる限り集客を図る。	
R4年度の目標	・公開施設や公園等を維持管理し、来園者数3,000人を目指す。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		・1号石室及びガイダンス棟の公開 ・草木や公園施設の維持管理	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	1号石室及びガイダンス棟の公開	日	目標値	-	-	117	116	117	目標値	120	
			実績値	-	-	86			達成年度	R5年度	
		%	達成度	-	-	74%					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の設定の考え方	土・日・祝日を施設公開日として暦どおりに設定した。			
	本指標の設定理由	成果指標の増加につながる指標であるため									
	活動指標 (3つまで設定可)		日	目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
			%	達成度							
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
活動指標 (3つまで設定可)		日	目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	見学者数	人	目標値	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	目標値	3,000	
			実績値	3,696	2,628	1,476			達成年度	R5年度	
		%	達成度	123%	88%	49%					
	指標の種類	1.単年度での増加を目指す指標					最終目標値の設定の考え方	開園後2年間の実績値の維持が困難となったことから、令和元年度から目標値を3,000人に見直し、その達成を目標とした。			
	本指標の設定理由	市民等による葉佐池古墳公園の利用状況を示す指標であるため									
	成果指標 (3つまで設定可)		日	目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
			%	達成度							
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
成果指標 (3つまで設定可)		日	目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	土・日・祝日に内部公開を行ったが、4月～5月及び8月下旬～9月に新型コロナウイルス感染症対策のため休園したことにより、開園日数が少なくなった。									
	成果指標	新型コロナウイルス感染症の影響等により、令和3年度は令和2年度より臨時休園日が27日間から94日間へ増えたため来園者がさらに減少した。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	埋蔵文化財担当	連絡先	948-6605				
	部等長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リダー名	副主幹	楠 寛輝	担当者名	主任	渡部 愛美	主事	鶴久森 彬
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	埋蔵文化財担当	連絡先	948-6605				
	部等長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リダー名	副主幹	楠 寛輝	担当者名	主任	山内 英樹	主事	鶴久森 彬

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(実施コード)	44112	埋蔵文化財管理運営事業	事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	1:直営
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-	
施策	文化遺産の継承		市長公約	主な取り組み	-	
主な取り組み	文化財の保存・活用					
取り組みの柱	埋蔵文化財については、開発による破壊をできる限り防止するとともに、埋蔵文化財センターと連携した公開・活用などをとおして、文化財を身近に感じる機会を提供することにより、保護意識の醸成を図ります。		取組み	-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等	文化財保護法					
事業の目的(どのような状態にするか)	埋蔵文化財について、これを適正に保護するため、文化財保護法で義務付けられている「周知の埋蔵文化財包蔵地」(以下「包蔵地」という。令和4年4月1日現在386か所)での土木工事等に伴う届出等に伴う事務や、愛媛県教育委員会の指示等に基づき、土木工事等への立会を行うとともに、適宜、包蔵地範囲等の見直しを行う。また、指定文化財(史跡、名勝、天然記念物)について、これを適正に保護するため、現状変更等許可申請等に伴う事務や、現状変更等への立会を行う。					
背景(どのような経緯で開始したか)	昭和29年の文化財保護法の改正で、従来の指定文化財に加えて、埋蔵文化財の保護に関する規定が整備されたことに伴うものと考えられる。平成10年度までは、埋蔵文化財と史跡、名勝、天然記念物に関する管理や事務等を行っていたが、平成11年度、史跡、名勝、天然記念物の管理運営については、本事業から分離し「史跡等管理運営事業」として行うこととなった。その後、令和3年度、「史跡等管理運営事業」を本事業に統合し、本事業で埋蔵文化財と史跡、名勝、天然記念物に関連する事務等を一元的に行うこととなった。なお、平成12年度の文化財保護法の改正により、現状変更等の許可権限の一部が、市教委へ委任された。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	埋蔵文化財については、以下の事務を実施している。 ・包蔵地の周知及び変更 ・土木工事等の届出等に伴う事務及び立会 指定文化財(史跡、名勝、天然記念物)については、以下の事務を実施している。 ・現状変更等許可申請等に伴う事務 ・全国史跡整備市町村協議会に関する事務					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	~ 令和 4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費	項	社会教育費	目	埋蔵文化財費	R3予算措置時期	当初
				R2年度			R3年度		R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				106			772		807	
決算額(B)(単位:千円)				94			161			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金			0			0		0	
	県支出金			0			0		0	
	市債			0			0		0	
	その他			0			0		152	
一般財源			94			161		655		
主な経費(単位:千円) ※R3→決算、R4→予算							消耗品費 77千円 負担金及び交付金費(全史協等) 65千円		普通旅費(全史協等) 606千円 負担金及び交付金(全史協等) 65千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等							史跡等管理運営事業と統合			
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)			12		611	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・包蔵地の周知 ・包蔵地内での土木工事等の届出等に伴う事務処理(照会・受付・協議・進達・通知) ・届出等に伴う試掘調査、工事立会等 ・史跡・名勝・天然記念物に係る現状変更等許可申請等の手続 ・全国史跡整備市町村協議会、同愛媛県支部に係る事務					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点、悪かった点など		包蔵地内での土木工事等の届出等(計231件)や史跡・名勝・天然記念物に関する現状変更等の許可申請等(計119件)に全て対応できたため。	
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由		文化財保護法に基づき埋蔵文化財に関連する規制を適切に運用することで、その保護が図られるため		
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない		公益性	3 1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	近年の試掘調査等の成果を反映し、適宜、包蔵地の範囲を見直ししていく必要がある。			環境変化、障害、課題等解決のため、R4年度で取り組む改善策		近年の試掘調査等の成果を反映し、計画的に包蔵地の範囲の見直しを進める。
R4年度の目標	近年の試掘調査等の成果を反映し、見直しが進んでいない南江戸地区を中心に包蔵地の範囲の見直しを進める。 引き続き、埋蔵文化財や史跡・名勝・天然記念物の適正な保護を図る。			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		・包蔵地の周知及び範囲の見直し ・包蔵地内での土木工事等の届出等に伴う事務処理(照会・受付・協議・進達・通知) ・届出等に伴う試掘調査、工事立会等 ・史跡・名勝・天然記念物に係る現状変更等許可申請等の手続 ・全国史跡整備市町村協議会、同愛媛県支部に係る事務

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	埋蔵文化財担当	連絡先	948-6605				
	部長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	楠 寛輝	担当者名	主任	渡部 愛美	主任	志磨 尊子
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	埋蔵文化財担当	連絡先	948-6605				
	部長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	楠 寛輝	担当者名	副主幹	伊藤 豊	主任	渡部 愛美

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(実施コード)	44112	埋蔵文化財センター管理・教育普及事業	事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	3:指定管理
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-	
施策	文化遺産の継承		市長公約	主な取り組み	-	
主な取り組み	文化財の保存・活用			取組み	-	
取り組みの柱	埋蔵文化財については、開発による破壊をできる限り防止するとともに、埋蔵文化財センターと連携した公開・活用などをとおして、文化財を身近に感じる機会を提供することにより、保護意識の醸成を図ります。					
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等	松山市立埋蔵文化財センター条例、松山市公の施設に係る指定管理者の指定手続に関する条例						
事業の目的(どのような状態にするか)	本市の埋蔵文化財や歴史・文化に関する展示や講演会等の教育普及活動を実施し、市民の地域学習等での埋蔵文化財の活用を図ることで、市民の埋蔵文化財や本市の歴史・文化に対する理解を深め、埋蔵文化財保護意識の高揚や本市への愛着を育むことを目的とする。						
背景(どのような経緯で開始したか)	埋蔵文化財センター・考古館は、平成元年10月31日に松山市政100周年事業の一環として松山総合公園内に開館した。埋蔵文化財の発掘調査の拠点としての機能に加え、考古館を付設し、常設展や特別展、出前講座、古代体験教室等を開催するなど、利用者への学習の機会を提供することで、埋蔵文化財保護思想の普及啓発に努めている。平成18年度から指定管理者制度を導入している。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	(公財)松山市文化・スポーツ振興財団を指定管理者として指定し、広く市民を対象として、以下の業務を委託して実施している。 ・開発工事等に係る発掘調査 ・出土品等の整理・調査研究・管理、調査報告書の編集・刊行 ・展示会の開催(常設展、四国地区埋蔵文化財センター連携事業「へんろ展」、県市連携事業「古代いよ発掘まつり」、特別展等) ・講座・講演会等の開催(出前講座、古代体験教室、考古学講座、講演会、バスツアー等)						
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由	考古館観覧料(常設展)一般100円、団体(20人以上)80円、高校生以下無料 ※特別展は別途料金を定める。			
始期・終期(年度)	平成	元	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費	項	社会教育費	目	埋蔵文化財費	R3	当初	6月補正
									予算措置時期		
				R2年度		R3年度		R4年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				201,656		284,725		200,165			
決算額(B)(単位:千円)				175,082		251,019		3,007			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金		491		3,092		0				
	県支出金		0		0		0				
	市債		0		72,100		0				
	その他		381		328		1,300				
一般財源		174,210		175,499		195,858					
主な経費(単位:千円) ※R3→決算R4→予算				埋蔵文化財センター指定管理料 164,898千円 埋蔵文化財センター大規模改修工事代金(計4件) 80,201千円		埋蔵文化財センター指定管理料 193,051千円 重要文化財愛媛県朝日谷二号墳出土品保存修理業務委託料 5,741千円					
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等				6月補正で5,897千円追加 流用による増あり							
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		26,574		33,706			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 開発工事等に係る発掘調査(4件) 出土品の保存処理(約550点)、調査報告書(『松山市埋蔵文化財調査年報33』を含め2冊 ※別に市内遺跡発掘事業分を除く受託分3冊)の刊行、図録『朝日谷2号墳』の発売 展示会の開催(四国地区埋蔵文化財センター連携事業「発掘へんろ展」、県市連携事業「古代いよ発掘まつり」[前年度に市・県が実施した発掘調査等の速報展]、特別展「発掘・松山の至宝」等) 講座・講演会等の開催(出前講座[58回]、古代体験教室、考古学講座等) 施設の大規模修繕工事 					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点、悪かった点など	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、考古館については臨時休館やイベントの中止・縮小、出前講座の伸び悩み等、様々な影響を受けたものの、指定管理者と緊密に連携し、予定していた事業を概ね実施できたため。また、施設の大規模修繕工事を予定どおり完了したため。		
施策への貢献度(目的達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	本事業の実施により、市民に対し埋蔵文化財保護思想を啓発するとともに本市への愛着が育まれるため。			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化、課題となっている事項	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度末以降、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、イベントや団体来館、出前講座の受付中止や縮小が続いており、利用者数や収益への影響は避けられない状況であること。 令和4年度に公開承認施設認定の期限を迎えることから、その継続に向けて、文化庁と緊密に調整する必要がある。 		環境変化、障害、課題等解決のため、R4年度で取り組み改善策	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、事業の実施と感染防止対策の徹底との両立を図る。 引き続きの考古館の公開承認施設認定を目指し、完了した施設の大規模修繕工事を受けての館内環境の安定化を図る。 		
R4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> 目標利用者数29,600人(入館者数20,600人+出前講座受講者数9,000人) ※令和3年度利用者数12,066人(入館者数7,305人+出前講座受講者数4,761人) 考古館の公開承認施設認定が期限を迎えることから、引き続きの認定を目指す。 		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	<ul style="list-style-type: none"> 開発工事等に係る発掘調査 出土品等の整理・調査研究・管理、調査報告書の編集・刊行 展示会の開催(常設展、四国地区埋蔵文化財センター連携事業「発掘へんろ展」、県市連携事業「古代いよ発掘まつり」、特別展等) 講座・講演会等(出前講座、古代体験教室、考古学講座、講演会、バスツアー等) 引き続きの公開承認施設認定に向けた各種手続 		

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	古代体験教室の実施回数	回	目標値	232	232	236	240	240	目標値	240	
			実績値	252	217	401			達成年度	R5年度	
		%	達成度	109	94	170					
	指標の種類	1.単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		過去の実績と成果指標の比率を基に設定した。			
	本指標の設定理由	成果指標の増加につながる指標であるため									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%		達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	入館者及び出前講座受講者数	人	目標値	27,200	27,600	28,600	29,600	29,600	目標値	29,600	
			実績値	26,590	14,135	12,066			達成年度	R5年度	
		%	達成度	98	51	42					
	指標の種類	1.単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		第6次松山市総合計画で目標とする人数と同じ。			
	本指標の設定理由	埋蔵文化財保護意識の高揚や本市への愛着を育むことを目的とする考古館の活動状況を最もよく示す指標であるため									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%		達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	新型コロナウイルスの感染拡大や大規模修繕工事に伴い、館内での体験学習教室の実施回数は伸び悩んだが、対策として、教室の教材を家でもできる古代体験教室として販売した結果(教材申込1件を教室1回開催としてカウント)、目標を上回った。									
	成果指標	新型コロナウイルスの影響による臨時休館や、団体来館・出前講座の中止、各種講座への人数制限等による入館者数の減少に加え、施設の大規模修繕工事に伴う休館が重なり、目標を大きく下回った。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	埋蔵文化財担当	連絡先	948-6605				
	部等長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	楠 寛輝	担当者名	主任	志磨 尊子	主事	鶴久森 彬
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	埋蔵文化財担当	連絡先	948-6605				
	部等長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	楠 寛輝	担当者名	主任	渡部 愛美	主任	山内 英樹

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	44112	市内遺跡発掘調査事業	事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	2:委託
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-	
施策	文化遺産の継承		市長公約	主な取り組み	-	
主な取り組み	文化財の保存・活用			取組み	-	
取り組みの柱	埋蔵文化財については、開発による破壊をできる限り防止するとともに、埋蔵文化財センターと連携した公開・活用などをとおして、文化財を身近に感じる機会を提供することにより、保護意識の醸成を図ります。		-			
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等	文化財保護法						
事業の目的(どのような状態にするか)	埋蔵文化財を適切に保護するため、国庫補助金を活用し、文化財保護法第93条で義務付けられている「周知の埋蔵文化財包蔵地」(以下「包蔵地」という。令和4年4月1日現在386か所)での土木工事に係る届出等に伴う試掘調査や個人住宅建設に伴う発掘調査等を実施する。						
背景(どのような経緯で開始したか)	昭和50年代から開発に伴う発掘調査が増加する中で、昭和54年に文化庁による「埋蔵文化財緊急調査費国庫補助」が制度化されるとともに、昭和61年から総合公園の整備に伴う発掘調査が本格化したことを受け、昭和62年から事業化されたものと考えられる。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	(公財)松山市文化・スポーツ振興財団(以下「財団」という。)に以下の業務を委託して実施している。 ・届出等に伴う試掘調査等:届出等が義務付けられている包蔵地内での土木工事を対象(公共事業については包蔵地外でも対象とする場合あり) ・個人住宅建設等に伴う発掘調査:個人住宅建設に伴い、愛媛県教育委員会から指示された発掘調査を対象として実施 ・重要遺跡確認調査:史跡やその周辺部等、特に重要と判断される遺跡を対象として実施 ・出土品等の整理、調査報告書の編集・刊行:本事業で過去に実施した発掘調査を対象として実施 ・遺跡地図情報の整理:過去の試掘調査や発掘調査を対象として実施						
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由				
始期・終期(年度)	昭和	62	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費		社会教育費		埋蔵文化財費	R3予算措置時期	当初	
				項	目	目	目				
				R2年度		R3年度		R4年度			
現計予算額(A)(単位:千円)						32,209		32,333		28,160	
決算額(B)(単位:千円)						28,238		28,546			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金					12,628		13,372		12,806	
	県支出金					0		0		0	
	市債					0		0		0	
	その他					0		0		0	
	一般財源					15,610		15,174		15,354	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算								市内遺跡発掘調査等業務委託料 24,045千円 (繰越)来住庵寺露盤石保存処理業務委託料 4,237千円		市内遺跡発掘調査等業務委託料 27,575千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等								予算額のうち4,238千円、決算額のうち4,237、国庫支出金のうち2,250千円は前年度繰越分 流用による減あり			
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		3,971		3,787			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	試掘調査等(111件) ・出土品等の整理(2件)・保存処理(1件)、調査報告書の編集・刊行(1冊) ※うち、出土品等の保存処理(1件)は前年度繰越分 ・遺跡地図情報の整理(48遺跡)					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	予定していた事業を全て実施することができたため。		
施策への貢献度(目的達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	円滑な事業の実施により、埋蔵文化財保護行政に対する市民・民間事業者の理解を得られ、埋蔵文化財の保護が図られるため。			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	・届出内容や試掘調査結果によって、特定の時期に多数の発掘調査が重なる可能性がある。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組み改善策		・届出等に伴う試掘調査等や個人住宅建設等に伴う発掘調査などについて、埋蔵文化財保護に協力する市民の負担を減らすため、埋蔵文化財センターと緊密に連携し、より一層の円滑な事業の実施に努める。	
R4年度の目標	・届出等を受けて必要となった試掘調査等の全件(110件程度の見込)の実施 ・調査報告書1冊の刊行		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		・試掘調査等 ・出土品等の整理・保存処理、調査報告書の編集・刊行 ・遺跡地図情報の整理	

令和4年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	文化財保護	連絡先	948-6603		
	部等長名	鷲谷 浩三	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	担当者名	主任	本田 静香	
令和3年度	部局等名	教育委員会事務局	課等名	文化財課	担当グループ名	文化財保護	連絡先	948-6603		
	部等長名	井出 修敏	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	担当者名	主任	本田 静香	

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	44211	運営補助金交付事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-	
施策	文化芸術の振興と活用			主な取り組み	-	
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援		市長公約	-		
取り組みの柱	文化芸術情報の効果的な発信や文化団体への活動支援などにより、市民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会を充実させるとともに、指定無形民俗文化財の保存伝承や後継者育成のため、引き続き保存団体などへの運営支援を行います。			-		
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	松山市補助金交付規則					
事業の目的(どのような状態にするか)	県指定無形文化財を始めとする民俗芸能の保存伝承と後継者の育成、松山の歴史・地理研究を支援するため、保存団体・研究団体に運営費の補助を行い、郷土に対する理解と愛着の涵養を図り、文化財保護の推進に努める。					
背景(どのような経緯で開始したか)	民俗行事や民族芸能は、地域の伝統文化であるとともに、後世に引き継がれていくべき財産であるため、民俗芸能保存団体、歴史研究団体への運営補助を開始した。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	伊予源之丞保存会、小富士文化保存会、松山市獅子舞保存協会、伊予史談会、松山ユネスコ協会、古三津虎舞保存会、鹿島権練保存会、北条郷土芸能伊予万歳保存会、以上8団体について、団体運営の実績報告と申請に基づき、補助金を交付。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	昭和 40	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費		目	文化財保護費	R3予算措置時期	当初
				項	社会教育費				
				R2年度		R3年度		R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)					2,280		2,280		2,280
決算額(B)(単位:千円)					2,280		2,280		
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金				0		0		0
	県支出金				0		0		0
	市債				0		0		0
	その他				0		0		0
	一般財源				2,280		2,280		2,280
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算				各団体への補助金 2,280千円		各団体への補助金 2,280千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等									
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		0		0	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	8団体へ補助金交付 ・伊予源之丞保存会、小富士文化保存会、松山市獅子舞保存協会、伊予史談会、松山ユネスコ協会、古三津虎舞保存会、鹿島権練保存会、北条郷土芸能伊予万歳保存会					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	補助金交付により、市内の各団体が、民俗芸能の保存伝承や後継者の育成を行ったり、研究や啓蒙活動を行う等の活動向上に寄与した。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	補助金交付により、市内の各団体が、民俗芸能の保存伝承や後継者の育成を行ったり、研究や啓蒙活動を行う等の活動向上に寄与した。			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特に無し。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		特に無し。	
R4年度の目標	適性な補助金交付により、各団体の活動向上に寄与する。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		8団体へ補助金交付予定 ・伊予源之丞保存会、小富士文化保存会、松山市獅子舞保存協会、伊予史談会、松山ユネスコ協会、古三津虎舞保存会、鹿島権練保存会、北条郷土芸能伊予万歳保存会	